



地域医療と 地域をつなぐ人をつくる

MSC という新しい挑戦

MSC 1st Year Report

NPO 法人 Yokotter 所属
横手市地域おこし協力隊
外松 誠紀

What is MSC?

MSC は、医療コーディネーター（MC）や診療アシスタント（PA）という在宅医療を支える職種に立脚しつつ、リンクワーカーやソーシャルコーディネーターのように、医療・介護・福祉・地域資源の間を行き来し、患者さんが暮らし続けられる環境を整える新しい役割。

秋田県横手市の現状と地域おこし協力隊の役割

現 状	訪問診療の需要が急増 ■独居高齢者および高齢者のみの世帯の増加に伴い、今後訪問診療の需要が急増することが予想される。 ■一方、訪問診療では、医師、薬剤師、ケアマネジャー、福祉施設、行政など多くの関係者が関わるため、情報共有の手間が多く医療機関の負担となっている。 ■また、訪問診療の仕組みは複雑であるため、専門性の高い人材を確保するハードルが高く、医療機関の新規参入が進んでいない。	社会的処方の重要性 ■少子高齢化、未婚化・晩婚化、核家族化などを背景に、地域社会を支える人と人の「つながり」は希薄化し、孤独・孤立問題が顕在化・深刻化する中、疾病の治療のみにとどまらず、個人の生活環境を調整し、健康と福祉を向上させる「社会的処方」の重要性が増している。 ■地域包括支援センターやケアマネジャー等が一定の役割を果たしているが、守備範囲が限定的であり、総合的なアプローチに欠けている。 ■医療関係者と介護関係者及び地元企業や地域住民等、あらゆる地域資源を連携させ、患者の生活全体をコーディネートする、在宅医療に特化した新たな専門職が求められている。
課 題	■情報共有の効率化 ・ DX 化の推進 ・ 統一されたデータベースの構築 ■各機関の連携強化 ・ 同一システムの利用推進 ・ 連携基盤の構築 ■事務処理の簡素化 ・ 自動化されたシステム導入（リモートワーク推進） ・ 手続きの簡素化	■医療機関を受診した患者の身体的な問題だけでなく、貧困や孤立など社会的・経済的な課題を明らかにして適切な支援につなげる ■患者の日常生活を支える地域コミュニティとの連携・創出 ■地域生活で役立つ情報の収集・データベース化 ※横手市情報センターの情報を活用
解決法	■各ステークホルダーの調整（顔つなぎ、会議の招集、DX ツール利用促進等） ■DX 化などのシステム構築（業務を通して、必要な機能等をシステム開発者とともに検討する） ■手続きの簡素化	■訪問診療の同行や訪問前問診等しながら、地域コミュニティとの連携を構築する（顔見知りになる） ■患者と地域資源をつなぎ、自宅での生活環境を調整する
協力隊の役割	各ステークホルダーの調整・DX 化などのシステム構築	訪問診療に同行し、地域コミュニティとの連携構築

横手市地域おこし協力隊員設置要綱に基づき、医療事務補助と社会的処方（生活支援調整）を担う「医療ソーシャルコーディネーター（MSC）」※として活動する地域おこし協力隊員の募集を行います。医療、福祉、市民団体、行政が連携し、人口減少社会における地域のニーズに応じたサービスを提供する新しい地域包括ケアシステム。住民一人ひとりが自律的に地域課題の解決に関与し、地域全体の健康と福祉を向上させる社会を実現します。

必要なスキル

※医療に関する知識や資格は必要ありません。

コミュニケーション
能力

基本的な
IT 能力

問題解決能力



2025年4月

何もない状態から、すべてを学ぶことからスタート

医療・介護・福祉の知識 **ゼロ**

医療・介護・福祉は知識も経験もほとんどない状態

在宅医療の現場を通じて、全体像や関わる人の仕事を知るところからスタート

医療・介護・福祉に携わる人とのつながりもなかったため、各職種の方々と
出会うところからスタート

地域とのつながり **ゼロ**

出身は長野県飯田市。横手の知人は秋田県立大時代に知り合った数人程度

ただし、地元長野県飯田下伊那地域や秋田県立大学・東京藝術大学大学院時代
で、まちづくりや教育活動を経験。

その経験を活かしながら、Yokotter の活動を通じて、地域社会と関わる
ところからスタート



LEARN

診療所での研修

外来・訪問診療事務、医療クラーク業務、訪問診療同行、診療補助を通じて、在宅医療の仕組みや多職種とのつながりを現場で学び全体像を掴む。



先進地域での研修

先進的な取り組みをしている、神奈川県内の在宅診療所での1週間の研修。医師、看護師、多職種との連携をPAのプロフェッショナルがどのように学び、判断し、行動しているのかを吸収した。



災害医療に関する研修

BCP策定研修、被災地視察（能登地方）、震災対策技術展、救急救命講習、災害医療セミナー、JMAT研修会などへの参加を通して、医療・介護・福祉の機能を止めないための視点を学ぶ。

まなぶ

BUILD

つくる

医療クラーク業務の可視化

MSCという役割を誰もが担える仕事にしていくために、先輩医療クラークと協力して言語化、フローのマニュアル作成を行った。



SUMAMOの整備

運用準備、医療機器の選定、関係先との調整、医療機器の設定、検査フローの設計、試験運用、検査フローのアクションカード化などを担当し、ゼロから準備を進めた。



BCP策定

医療機関のBCP策定に携わってきた。聞き取りや現場からの情報収集、アンケートの実施、実効性のあるBCPを目指し作成と修正を繰り返してきた。



CONNECT

社会的処方の実践に向けた関係形成の土台づくり

つなぐ

現場の声を聞く

- ・診療所の業務のボトルネックを聞き、改善する
- ・薬局、訪問看護、行政、地域包括などへのBCP対策についての聞き取り調査
- ・各研修会での意見交換
- ・横手市総合防災訓練への参加



地域の場に飛び込む

- ・灯り点し隊
- ・かまくらおもてなし
- ・送り盆生配信・撮影サポート
- ・かまくらライド
- ・横手 oh! 愛で隊掃き清め大作戦
- ・よあそび楽座への参加 等



多職種とのつながりづくり

- ・多職種連携研修会、在宅医療介護普及講座の実施運営
- ・ケアマネ向け BCP 研修会、訪問看護向け BCP 研修会のサポート
- ・看護カフェ、ケアマネカフェ、リハカフェなどの研修会のサポート



活動を伝える

- ・協力隊活動展示（Ao-na）
- ・在宅医療介護普及講座（高校生・一般向け）の講師として MSC について講話
- ・SUMAMO お披露目会ガイド
- ・SNS・市報での記事掲載



学校・学生との活動

- ・横手南中学校総合学習の講師としての参加
- ・横手清陵学院高等学校の探究学習支援、（赤門祭）
- ・JPX 起業体験プログラムにおける高校生企業のサポート

医療・介護・福祉の基礎知識と社会的処方の実践に向けた関係形成の土台づくり

**訪問検査**

検査手順設計・検査補助・算定確認等

本格立ち上げ

- 12月：初の訪問検査実施
- 1月：レントゲン初実施、3名検査
- 2月：2か所4名の訪問検査
- 3月：複数回実施、イレギュラー対応も経験

**地域・多職種連携**

新たに接点できた組織・団体は100件以上

医療・介護系

- ・地域のクリニック・薬局、介護福祉専門職
- ・横手市在宅医療・介護連携推進協議会
- ・JMAT 秋田 ・DMAT 大阪事務局 等

行政・地域連携

- ・平鹿地域振興局・社協・横手市消防本部 等

教育・若者関係

- ・横手市立横手南中学校 ・横手清陵学院高等学校
- ・JPX 起業体験プログラムチーム 等

企業・事業者

- ・医療機器会社 ・横手市商工会議所 等

地域活動・イベント系

- ・灯り点し隊・横手キズナプロジェクト
- ・よあそび楽座 等

**SUMAMO 関連**

企画・整備・試験運用・展示まで担当

- ・車両整備 ・医療機器選定、調整、設定
- ・STARLINK テスト・訪問検査オペレーション整理
- ・展示・お披露目・普及講座対応

**研修・セミナー・学会等**

運営企画、参加含め30件以上

- ・研修受講 ・セミナー企画運営 ・学会聴講
- ・ケアマネ研修 ・防災・BCP 関連研修
- ・診療アシスタント研修 等

**発表・講師**

4件

- ・横手南中学校での授業
- ・AI 活用セミナー講師
- ・SUMAMO お披露目会ガイド・普及講座講師
- ・診療アシスタントトレーナー研修での事例発表

土台ができ、次のステージへ



現場の理解

診療そのものだけでなく、事前準備、移動、情報共有、記録、検査、物品管理、患者さんや家族との関係、多職種との連携までを含めた在宅医療の全体像を理解してきた。



仕組みづくり

SUMAMO（設計、選定、調整、設置、システム構築）、訪問検査、医療機器運用、情報管理、マニュアル化など、在宅医療を地域で支える仕組みづくりを進めてきた。



関係づくり

医療、介護、薬局、訪問看護、行政、学校、地域イベント関係者などと接点をつくり、社会的処方の実践に向けた土台をつくってきた。



次の挑戦

1. 属人的な仕組みから組織の形へ
限られた人に依存しやすい仕組みを、誰が関わっても動けるものに整え、連携先との役割分担を整理していく。
2. 社会的処方の実践へ
社会的処方の実践そのものに本格的に入る前提として、現場理解、関係形成、仕組みづくりをさらに進めながら、実践へ移っていく。



1 年目



土台づくり

- ・ 現場理解
- ・ 関係形成
- ・ 仕組みづくり
- ・ クラーク業務
の基礎づくり

2 年目



つなぐ

仕組みを確かなものにし、
「誰かと誰かをつなげる」段階へ

- ・ 在宅医療を支える仕組みを確かなものにする
- ・ 訪問看護、薬局、ケアマネ、行政、地域包括、
地域団体、学校などと連携し、医療情報だけで
なく生活背景や地域との関係も含めて支援する
- ・ 情報共有の仕組みづくり
- ・ クラーク業務向上、SUMAMO・BCPの運用を
進める

3 年目



実践する

MSCとして

社会的処方の実践を形にする

- ・ 在宅医療事務と多職種連携の両方を担う
- ・ 医療と地域の上に立ち、必要な資源をつなぐ
- ・ 地域資源を活かした孤独・孤立・生活課題への
対応
- ・ 地域に合った連携や仕組みづくりに関わる

MSC の活動から生まれた「人」と「仕組み」を地域の財産として残し、未来につなげていく



MSC を「新しい職」 として確立する

自身が活動するだけでなく、
MSC として活動できる人材
を地域に増やしていく。



人材が地域に残る



「つなぐ仕組み」 の確立

医療・介護・福祉と地域資
源をつなぐ仕組みを地域に
確立する。



仕組みが地域に残る

MSC の活動から生まれたもの



現場理解

地域の声を丁寧に聞き
本質的な課題を見つける



関係形成

多様な人や団体とつながり
信頼関係の輪を広げる



仕組みづくり

課題解決につながる仕組みを
共に考え、形にする

人と仕組みを地域に残すことで、誰もが安心して暮らせるまちの基盤となる

ゴールの先へ 横手の未来

誰もが安心して 自分らしく暮らせるまちへ

何歳になっても、病気になっても住み慣れた場所で安心して暮らし続けることができ、すべての世代が地域で支え合い、一人ひとりができることから関わりながら、よりよく暮らせるまちを目指す。



こども・子育て



教育・学校



働く世代



高齢者



医療



介護・福祉



地域・つながり

私たちがつなぎ、支える

Yokotter の理念



この街でこどもを産み育てたい
と言われる街を目指して

横手市の包括ケア理念



高齢者が住みなれた地域で
安心して暮らせる

在宅オンライン医療センター理念



住み慣れた地域で安心して
暮らせる未来を共に創る